



にゅーすれたーふじやま・長泉 ユニバーサルマナー検定



2017. 4

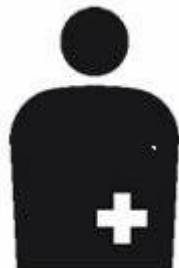
パナソニックエイジフリーショーブ

3月上旬、東京ビックサイトの会議室で行われた、「ユニバーサルマナー検定3級」を受講してきました。この資格はフェイスブック（FB）で知りました。FB を使えば地域の情報から世界の出来事まで知ることができるので本当に助かります。

さて、これからは、テーブルマナー、ビジネスマナー、公共のマナーと同じように「ユニバーサルマナー」も一般的に使われるようになると思います。マナーはなぜ存在するのでしょうか？それは人々が社会の中で、気持ち良く、安心して安全に暮らせるようにするためにあるのだと思います。超高齢者社会の日本、高齢者や障がいのある方など、自分とは違う誰かを思いやること、その方たちの視点に立つためにユニバーサルマナーが必要だと感じました。昭和のはじめと現在では大きく環境は変化しています。石ころだらけだった道路も舗装され、どんな駅にもエレベーターなどを設置するよという条例もできました。これがユニバーサルデザインです。今では車いすの方が外出しても困らなくなりました。障害のある方を個性のある人、ととらえられるようになるなど、人々の意識も変化してきました。しかし、なかなかハードを整備するには時間もお金もかかります。でも私たちの向き合い方ひとつで多くの方が助かります。

「ハードは変えられなくても ハート♥は変えられる」

Universal Manners Test



何のマークかわかりますか？

日本には、外出するときユニバーサルマナーを必要としている方はどのくらいいると思いますか？高齢者26%・障がい者6%・3歳児未満、ベビー2% 合計34%、つまり3人に一人は必要とされています。また、この方たちにかかわる人たち（親、子ども等）も必要としています。人は多様性の中で生活しています。人の違い（身長、体重、性別、老若、国籍、血液型等）は数多くあります。ですから同じところを探すのは困難です。日本人を100人とした場合、男49人・女51人で LGBT（性同一性障害）8人・高齢者26人・子ども15人・妊婦1人・左利き10人・障がい者6人・外国人1人。。。。

ユニバーサルマナーを必要とする人に対して日本人の対応の現状はどうかというと、無関心派か関心過剰派にわかれるそうです。無関心は見捨てる気持ちからの無関心というのではなく、「どうしたらよいかわからない難しい、怖い」など、接し方がわからないのが実態だと思います。勇気を持って「何かお手伝いすることはありますか？」と一声かけて差し上げたらいかがでしょうか？ところが「大丈夫ですか？」と言われた方はなぜか「大丈夫」と言ってしまうのだそうです。

続きは5月号で書かせていただきます。

渡邊啓視